

# 「平成27年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 28 年 5 月 30 日

仕事の内容	小・中学校特別支援学級運営事業			
担当部署・課長名	学校教育	課	特別支援教育	係 課長名 岩本 尚史

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 学校教育の充実

(総合計画書 31 ページ)

予算名	款	10	教育費	項	2/3	小学校費/中学校費	目	3	特別支援学級費	事業	1	特別支援学級事業費
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 小・中学校に設置されている特別支援学級及び特別支援学級に在籍する児童・生徒								① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 特別支援学級在籍児童・生徒数 → ①小学生 ②中学生			
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 特別支援学級の教育課程に沿った学習が行える								② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) → 特別支援学級の教育課程に沿った学習を行えた人数			
	③ そのために何をしましたか。 特別支援学級に在籍する児童・生徒が豊かな学校生活を過ごせるための授業展開に必要な教育環境の整備に必要な予算計上と執行								③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 特別支援学級数 → ①小学校特別支援学級数 ②中学校特別支援学級数			

2 指標の推移			単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度目標	平成29年度目標
	対象指標	①の数値	円	①30人 ②27人	①36人 ②30人	①40人 ②32人		
	成果指標	②の数値	円	①30人 ②27人	①36人 ②30人	①40人 ②32人		
	目 標	②の目標値	%			100		
		目標値設定の考え方	支援が必要な児童生徒の教育課程に沿った学習を実施するが、成果指数の実績数は目標値として馴染まないと考え					
活動指標	③の数値	学級数	①5学級②4学級	①5学級②4学級	①6学級②5学級			

3 経費	事業費		円	22,105,146	29,297,373	23,617,017	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,233,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成26年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	22,105,146	21,805,373	23,617,017	
		特定財源	円	0	7,492,000	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1	0.1	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	890,000	834,000	823,300	
職員人件費(再任用)	円	0	0	0			
事業費+人件費		円	22,995,146	30,131,373	24,440,317		

この仕事における市の裁量 市の裁量は小さい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、一人ひとりの特性や発達段階に即した適切な教育的支援が行えるように、学級運営に必要な経費を計上し執行した。	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 特別支援教育に対する理解が進み、特別支援学級に就学する児童・生徒が増加している。	

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成27年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	
	教育環境の充実のため、授業へのICTの導入等の要望及び、障害特性に応じた特別支援学級の設置を求める声がある。	

仕 事 の 内 容	小・中学校特別支援学級運営事業			
担当部署・課長名	学校教育	課	特別支援教育	係 課長名 岩本 尚史

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換 ⑦後援・場の提供 ⑧その他( )	
(2)平成28年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7 課題	この仕事を振り返り、課題を記入してください。			
	障害特性に合わせた個々の教育環境の充実を図ることは重要であるが、一人一人のニーズが多岐にわたるため、ICTの導入については、教員の研修及び技術向上、既存の指導方法とICTの効果的な活用方法の研究、予算措置等の課題がある。 また、障害特性に応じた学級設置として小学校への自閉症・情緒障害固定学級を要望する声があるが、発達過程にある未就学児を含めた児童の専門的な見立て（知的障害との区別）や学級運営の難しさも指摘されており、慎重な検討が必要と考える。			
8 今後の方向性	(1) 仕事の方向性（「7 課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）			
	ICTの活用については、先進市での活用事例、教員の研修及び技術向上の方策等の情報収集を図りながら、特別支援学級研修会等での研究を進める。 自閉症・情緒障害固定学級を設置している他市の視察等を行い、現状の把握と研究を進める。			
	(2) 上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的に記入してください。			
(1)に併記。				
(3) 改革・改善案による期待成果				
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成果	成果を維持する。		経費	仕事の経費は維持する。